

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念に、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努めることを掲げている。	○ 併設に協力病院及び施設があり、日頃より交流を持ち、協力体制のもとサービス向上に努めている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	思いが一方に向かう様、ヘルパー会議を利用し話し合っている。	○ ヘルパー会議だけでは、全員参加を望めない為、日頃話したり等している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域のボランティアを利用したり、地域の本屋から雑誌を配達してもらったりしている。	○ 地域のボランティアの取り入れを増やしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者は、地域の小学校に声をかけ、来所の機会をふやしてもらえるように努めている。	○ 小学校だけでなく、地域の方々に立ち寄ってもらえるように努めたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人が、一般公開している藤の花観賞に参加している。	○ 小学校の運動会に参加させて頂く予定をしている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者との交流が実現していない。	○ 地域の高齢者が、集まる場に出かけたり、地域の高齢者の方々が、気軽に訪問して頂ける場所にした。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ヘルパー会議の場などを活用し、当施設の自己評価について、職員全体で話し合っている。	○	今回が初めての外部評価であり、外部の目で見え、素直な意見を取り入れたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年3月より運営推進会議を開催し、多数の機関や方々に参加を呼びかけ、意見を求めている。	○	今後において、関りあるボランティアや近隣住民の方の参加予定をしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開いている懇親会に参加している。	○	行き来する機会は少ないが、今後交流する場を増やしていきたい。市の担当課職員が体験職員として、交流予定である。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	併設施設相談員と連携を行い、必要性のある方等ケース検討をしている。	○	必要な入居者には制度活用している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての話し合う場をもうけている。(ヘルパー会議等)	○	内部研修で取り上げたり、ヘルパーの心得として、今一度考える場をもちたい。虐待防止に関する外部研修に参加予定をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いのもと、契約を結んでいる。	○	他院への入院のため退所される場合等、必要に応じた話を家人とし、納得を得てから実行に移している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話所を利用し、家族が話しやすい場を作る様、努めている。ご意見箱を設置している。	○	苦情を受けた場合は、その都度対処する様努める。苦情処理体制を見直し、ご意見を汲み上げやすいように努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族交流は多くあり、その都度、電話連絡や、来所の際に直接お伝えする機会が多くある。	○	スタッフ誰もが、家人に伝えられる様伝言帳を作っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時を利用し、話所等で面談している。その際に、意見・不満・苦情を聞き、対処している。	○	出た苦情については、対処方法を、スタッフ間で話し合っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月／1回のヘルパー会議を利用し、意見交換をしている。	○	急を要し、月／1回のヘルパー会議に間に合わない場合は、同ユニットのスタッフ間で話し合っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	新入所の人々のADLに応じ、職員の配置に努めている。	○	その都度、必要な時間帯に職員を配置する為、早・遅出の配置に努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職希望者が現れた場合、早めの申し出をお願いしている。	○	離職までに職業安定所を通じ、人材確保に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を勧めたり、スタッフからの研修希望については、随時参加できる様に配慮している。	○	併設病院・施設職員との交流を深め、協同して知識を深めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、サービスの取り組みを話し合ったりするが、地域の同業者との交流は少ない。	○	地域のボランティア等の交流は、進んでいるが、同業者との交流を進めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	同じユニットで、職員を固定するのではなく定期的に、移動している。	○	スタッフをユニット固定しない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者はスタッフから出た案件などは積極的に取り入れ、達成感を感じてもらえるように努めている。	○	達成感を感じる事により、職員から新たな新案が生まれている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の安心できる場所を提供し、一対一で話す等している。	○	本人の思っている事、一つ一つの事に対し、一緒に考えて納得いくまで話しあうよに努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	併設施設相談員と協働し、家族等の要望に応じ、回を重ね、面談や施設見学を実施している。	○	不安要素を納得いくまで、話しあう機会を作っている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の際に、ニーズや緊急性を把握し、必要に応じて、協力病院・施設と調整を図っている。	○	本人、家族と話し合い、支援する内容の理解を深めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族の希望されるサービスに近づくように努めている。生活の様子をみながら、利用者・家族とともに話しながら提供している。	○	来所されない家族との話し合う機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人がこれまで育んできた生活歴などを聞いたりし、不穏時の対応にあてたりしている。	○	利用者は、介護に対して遠慮される時がある為、距離を縮められるように努力したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	イベント等には一緒に参加し、楽しんで頂けるように、都度参加を呼びかけている。	○	イベントが平日であり、なかなか家族の参加が望めていない。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とスタッフ間の信頼関係を築ける様に心がけ、家族が来所の際には日常の生活状況をお伝えしている。	○	来所時に、家族と話をする場を持つ様にしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	信仰されている方には、新聞の取り寄せ等を行っている。	○	家族の協力のもと、先祖の墓参りをされたり、スタッフ同行のもと、本人の家に帰ったりしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人ひとり、性格が違う為、同質の性格の人同士が過ごせる様に、ユニット生活を考えている。	○	同じ趣味同士や、スタッフが間に入る等し、仲をとりもつように努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他院へ入院された時など面会に行き、話し相手になるなどしている。	○	面会した際に、家族とも話をし、その方の近況等伺っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族等にこれまでの生活スタイルを聞き、なるべくそれに近づける様配慮している。(仏壇・園芸等)	○	仏壇の代わりに、居室タンスを使い、自分用の冷蔵庫を居室に置くなど、本人本位に検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設施設相談員及び、介護支援専門員の面談により、これまでの生活歴やニーズを把握している。	○	把握された生活歴より、経過に応じて介護機器の導入など個別対応を図っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に性格が違う為、性格の合う様な人達を同じユニットにするなどの配慮をしている。	○	一度入所したユニットが合わない場合には、ユニットを変えるなど検討している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン会議を開催し、個別ケアとして本人・家族と話し合いを深めている。	○	それぞれの担当者が集まって話しあう機会が、少ない為、増やす様努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフからの意見をその都度出し合い、必要に応じて、本人・家族等と計画の変更・作成をしている。	○	来所された際に、計画に対し変更等ある場合など話し合い、その項目については適時追加している。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録(個人カルテ)とは別に、行動計画記録用紙を利用し、特記事項を記入している。	○	行動計画記録用紙には、最低限の特記事項の記入をしており、介護計画の見直しの際に活用している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	歯科・眼科の受診希望者には、往診時受診して頂いている。	○	他院受診希望者は、家族が同行出来ない場合には、スタッフが同行し、他院受診している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月／2回、介護相談員の受け入れをしている。	○	地域のボランティア参加を呼びかけ、来所してもらっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ボランティア活動等の際に、併設施設と協力し、施設での合同参加をしている。	○	施設利用者と共に、ボランティアの活動を楽しみ、交流を深めている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の際など定期的に情報交換を行っている。	○	今後、長期的に必要性のあるケースについては、個別相談を進める必要がある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や投薬の変更、体調不良時等については、その都度、家族への連絡をし了解を得ている。	○	家族が他院への同行が不可能な場合は、職員が他院への受診を行っている。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	月／2回の往診時に、主治医に相談したり、長谷川式スケールを用い、経過的に診断を行っている。	○	認知症の進行がひどくなってきた場合など、主治医に相談しながら生活の支援を行っている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週／1回の訪問看護の際に、1週間の健康状態を報告している。計画作成担当者の一人が准看護師免許を取得している。	○	看護師により、受診の指示等出た際に、速やかに受診している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院とは、週1回カンファレンスを行い、利用者が入院された際など情報交換・相談している。	○	入院治療中に、不穏状態が続く場合は、家族・主治医と相談し、通院治療への変更を行う場合もある。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃より、生活や治療状況を家族に報告し、今後の可能性のお伝えや、家族意向を伺うように努めている。	○	医療現場での治療をすすめられた場合等にも、話しあいのもと方針を決める様に努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	持続点滴でない場合については、通院治療など行っている。(主治医と相談する)	○	持続点滴が必要な場合は、持続点滴が終了した時点で、通院に切り替える等その時々話し合いのもと決めている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居の際など、自宅家屋状況などを聴き取り、私物持込みなど家族協力を求め、住み慣れた部屋に近づけるよう努めている。	○	他院への入院等についてはそちらのスタッフ・家族と共に、情報交換をする様に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護記録等は、他者の目に触れないようにカルテ庫に管理を徹底している。	○	利用者一人一人の自尊心を傷つけないよう、スタッフの言葉使いが、気になった時等注意しあうようにしている。(ヘルパー会議時等)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人・家族と共に話し合い、納得出来る生活を送れるように支援している。	○	何度も繰り返し、家族・本人と話し合う場をもち、支援にむけてすすめている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活リズムをつける為、声掛けを行っている。団体での入浴が、嫌な方については個別入浴を実施している。	○	買い物日には、希望者は一緒にスタッフと外出し、希望されない方でも欲しい物品があればスタッフが買うなど対応している。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	買い物日には、お出かけ用の洋服選びなどに一緒に支援している。	○	家族が、理・美容の外出支援をしたり、本人が望めば訪問理・美容を利用している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者において、包丁等を使用出来ない方については、稲荷の御飯詰めをしたり、もやしのひげとりをするなど、出来る事を行っている。	○	歩行のしっかりされている方については、配膳等をおこない、食器洗いは利用者間で当番を決めておられる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物日に、好みの物を買う為外出をしたり、スタッフに買ってきてもらう等の配慮をしている。	○	たばこは、火の始末の事がある為、スタッフが見守りの中喫煙している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを個別に把握し、声かけする様になっている。	○	排泄に失敗した時は、速やかに綺麗にする等、周りに分からない様にし、自尊心を傷付けないように配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間帯の設定を行っているが、受診時間や外出・外泊に応じて、その利用者に合わせて入浴支援を行っている。	○	ボランティア・レクリエーションがある場合、利用者の理解を得て、普段とは違う時間帯に入浴をするなど対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各居室にトイレを設置しており、一人一人のペースでゆっくりと過ごすことができる。	○	規則正しい生活を送って頂く為、起床の声かけは、行っているが、居室の消灯時間は決めていない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出・外食の機会を増やしたり、趣味や仕事の役割分担をする等し、日々の生活を営めるように努めている。	○	レクリエーションが終われば、次のレクリエーションをポスターで知らせる等し、楽しみを持って頂けるようにしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が、お金を所持している場合は、買い物や他院への受診の際に、直接本人から支払ってもらう等している。	○	管理が出来なくなると、家族からお小遣い程度を預かるようにしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に一度、外出日を設け、外出支援を行っている。	○	外出が楽しみになるように、毎月行き先を変えたり、行きたい所や、したいことを利用者に尋ね、実現出来るように努めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の要望に応じて、自宅等個別に支援をしている。	○	他の利用者と共に外出出来る場所については、スタッフ同行のもと、ユニットごとに外出を行っている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、自由に電話をかける事ができる。	○	手紙を出す場合は、スタッフがかわりにポストに出している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族や来客の方が帰る際には、職員も共にお見送りをするなど、気軽に訪問できる雰囲気作りを努めている。	○	気軽に声をかけて頂ける様な雰囲気作りに努めている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人一人の利用者の状態を理解し、個別ケアを行い、身体拘束を行わないように努めている。身体拘束について、ヘルパー会議時に議論している。	○	身体拘束は行っていない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は、確認をしてから開閉しているが、日中鍵をかけない時間を設けている。	○	日中の鍵をかけない時間を増やせるように努めたい。居室は一切鍵をスタッフ側からはかけていない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の行動パターンを理解する為、スタッフ間で情報提供している。	○	巡視時は、必ず本人に異変が無いかチェックしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物や、飲み込む危険のある物については、棚の中中や、手の届かない所に直している。	○	鍵付きの中に、なおすのではなく、開閉自由な所へ直し、職員へ声掛けをしていただいている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬されないように、スタッフが薬を手渡して管理している。利用者参加のもと、消防訓練を行い、緊急時の対応に備えている。	○	行方不明については、自動ドアの近くに詰所を作る事により、目が届く様にしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時・事故発生時には、隣接される協力病院への受診が速やかに出来るように、連絡体制を職員間で徹底している。	○	車椅子・ストレッチャーでの搬送方法など職員指導している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設病院・施設のスタッフと協力し、消防訓練等を実施している。	○	自治体や近隣自治会など、ご近所の方々と協力体制について、働きかけをすすめたい。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、その都度家族と話し、了解を得るようにしている。	○	来所が少ない家族については、随時電話での話し合いをする等している。
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は、普段のバイタルチェック等と見比べている。計画作成担当者の一人が准看護師免許を取得しており、日頃より状態観察を行っている。	○	体調変化が見られる場合、速やかに隣接される病院へ、診察協力を仰いでいる。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から処方された薬は、薬の説明書で以前の用法、用量に変化が無いチェックしている。服薬は、スタッフが手渡し、誤薬を防いでいる。	○	初めて降圧剤を使用する場合は、バイタルの変化を確認している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員間で、便秘に対し理解している。運動不足にならないように毎日体操を実施している。	○	食物繊維の豊富な食材を多く取り入れ、水分摂取には声かけを行い、必要に応じて介助を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔内の状態を観察している。	○	入居者一人ひとりに対して、声かけをし、必要に応じて希望者には歯科往診を実施している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の管理は個人記録に記載している。食べにくい方は、キザミ食、飲み込みの悪い方は、トロミ食を提供している。	○	「キザミ」・「トロミ」と個々に食形態を分類し、対応している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成し、ヘルパー会議時に定期的に感染症予防について話し合っている。	○	併設施設の管理栄養士と都度、感染症予防対策など情報交換を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食洗機は80度以上で熱殺菌を行い、ハイター等を使用し、衛生管理をおこなっている。	○	食材は宅配を使用し、衛生管理をスタッフ一同で徹底し、食中毒の発生を予防している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は緩やかなスロープにしており、車椅子対応が出来るように安全配慮している。	○	外観には名称の看板を設置し、近隣からは分かりやすくしている。玄関先に庭を作り、親しみが持てるような雰囲気作りに努めている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に花を飾り、居間にはポスターや折り紙等の、季節に応じた花を作り、飾りつけている。	○	利用者さん、自ら季節の花々の折り紙をしてもらい、利用者と共に季節の飾り付けを行っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には独りになれる場所が少ない。	○	フロアーにはソファがあり、個々に談話の出来るスペースを設けている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・冷蔵庫・机の持ち込み等してもらっている。	○	ベットは、備え付けがあるが、布団は自分の愛用していたものや、使い勝手のいい物を使用されている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇・冷暖房を使用している。冬には、リハビリ体操の居室で過ごされる間等に、居室の窓を開け、換気している。	○	季節を問わず、換気扇・窓の開閉により、空気の入れ替えを行っている。体温調節の難しい入居者に対しては、適度に空調管理を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖・シルバーカー・歩行器・車椅子の使用がスムーズに行えるように、バリアフリー・車椅子トイレを設置している。	○	常時、車椅子利用者には、居室のトイレの扉をはずすなど、その時々に応じた対処をしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前に、顔写真を貼り、トイレへの目印を記載するなどし、混乱を防いでいる。	○	混乱・失敗のあった時は状況を確認し、不安材料を防ぐように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者と一緒にプランターに花を植えるなど、気候の良い時は軽食を楽しんだりしている。	○	意見を聞き、入居者の希望に沿えるように努めている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出、外食、地域の方々との交流等、実現が難しい内容に付いても、諦めるのではなく、いかにすれば実現可能かをスタッフ間でよく話しあっている。